

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K09907

研究課題名(和文)働き方改革における労働者の働き方の多様性に対応した産業歯科保健対策の検討

研究課題名(英文) Study on occupational dental health measures corresponding to diversity of working style of workers

研究代表者

大山 篤(Ohyama, Atsushi)

東京医科歯科大学・歯学部・非常勤講師

研究者番号：50361689

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：近年、わが国では「働き方改革」が進みつつあり、労働者の働き方が多様化している。しかし、現行の産業(歯科)保健制度は働き方の多様性への対応が困難であるといわれている。職域において有効な歯科保健対策の必要性が国会でも指摘されるなど、労働者の多様な働き方に合った新しい産業(歯科)保健対策が喫緊の課題となっている。

本研究では、Web調査により得られた質的・量的データを元に、労働者の働き方の多様性において、労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因を分析し、働き方改革での労働者の多様な働き方に対応した新しい産業(歯科)保健対策の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外の研究において、労働者の働き方や労働条件等の多様性が職域での歯科保健活動におよぼす影響を具体的に詳しく分析した研究はほとんどない。労働者の働き方の多様性において、どのような要因が産業(歯科)保健対策を困難にしているのか、十分に解明されていない点も多い。

本研究は、労働者の働き方の多様性において、労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因を分析し、働き方改革での労働者の多様な働き方に対応した新しい産業(歯科)保健対策を提言するための基礎データを集積する創造的研究である。

研究成果の概要(英文)：In recent years, Japan has been promoting "work style reform" and workers' work styles have been diversifying. However, the current occupational (oral) health care system is said to be difficult to respond to the diversity of work styles. The need for effective oral health measures in the workplace has been pointed out in the Diet, and new occupational (oral) health measures that are suitable for the diverse work styles of workers have become an urgent issue. In this study, based on qualitative and quantitative data obtained from a web-based survey, we analyzed the factors that make it difficult for workers to manage their general health and oral health in their diverse work styles, and examined new occupational (oral) health measures that respond to the diverse work styles of workers.

研究分野：産業歯科保健学

キーワード：産業歯科保健 産業保健 働き方改革 Web調査 非正規雇用 共通リスクファクターアプローチ ヘル  
スプロモーション Web based learning

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

現行の産業保健制度は、終身正規雇用の労働者を想定した制度である。しかし近年、本邦では一億総活躍社会実現に向けた「働き方改革」が進みつつあり、労働者の働き方も多様化している。女性や高齢者を中心とした非正規労働者が全労働者に占める割合は今後も増加が予測され、家族の介護やがん罹患による正規雇用からの離職、障がい者雇用の法定雇用率の引き上げなどもあり、今後は正規雇用労働者でさえも働き方の多様化が進む可能性がある。

上記のように労働者の働き方に変化が見られる中で、現行の産業(歯科)保健制度は、労働者の働き方の多様性(ダイバーシティ)に対応しきれない可能性がたびたび指摘されているが、いまだに具体的かつ有効な解決案は示されていない。そのため、働き方改革での労働者の多様な働き方に対応した新しい産業(歯科)保健制度の構築が喫緊の課題となっている。

第186回国会においても、労働安全衛生法の一部改正にかかる附帯決議に「職域での有効な歯科保健対策を検討すること」が盛り込まれ、内閣府が公表した「経済財政運営と改革の基本方針2017」でも、「企業における健康経営の推進や生涯を通じた歯科健診の充実」が明記されており、国にとっても産業歯科保健対策は早急に解決すべき課題となっている。

## 2. 研究の目的

本研究では、主に以下の項目に関して明らかにすることを目的とした。

(1) 労働者の働き方の多様性(ダイバーシティ)において、労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因の検討

近年、働き方改革により労働者の働き方も多様化しており、現行の産業(歯科)保健制度での対応が困難である。そのため、労働者の働き方の多様性が口腔保健におよぼす影響を多角的に検討することを目的とした。労働者の働き方の多様性は、労働者の健康観や歯科受療行動、歯科保健ニーズなどとも相互に影響している可能性があり、それらもふまえて労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因の検討を行うこととした。

(2) 働き方改革での労働者の多様な働き方に対応した新しい産業(歯科)保健対策の検討

本研究では、(1)の研究結果をもとに、働き方改革における労働者の多様な働き方に対応した、新しい産業(歯科)保健対策を検討することも研究目的とした。たとえば女性労働者の場合、非正規労働者の割合が高く、妊娠や出産、育児などのライフイベントがあり、親の介護などを担うことも多いとされている。このような女性労働者特有の働く環境やライフコース、歯科受療行動などは、女性労働者の働き方の多様性と相互に影響している可能性があるため、女性労働者の特性に合わせた新しい産業(歯科)保健対策を検討する必要がある。

また、労働者の多様な働き方に対応した産業(歯科)保健対策を効率的に進めるためには、生活習慣病の共通のリスクファクターに対して改善を働きかける Common Risk Factor Approach が有効と考えられ、この手法を産業(歯科)保健の現場に取り入れる点に学術的な独自性がある。

(3) 労働者の働く環境と産業(歯科)保健に関する Web 教材の作成・実施と客観的評価

本研究では、労働者の多様な働き方や産業(歯科)保健に関する Web 教材を作成し、歯学部 of 学生や研修歯科医に提供して、学習効果の客観的評価を行うことも目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 労働者の働き方の多様性(ダイバーシティ)において、労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因の検討

より働き方に多様性があると考えられる非正規雇用労働者の実態を明らかにするため、非正規雇用労働者の割合や社会保障、正規雇用労働者との格差などに関する文献レビューを行った。また、Web 調査のデータを利用して、さまざまな立場の労働者の働き方にどの程度の多様性があるのかを分析した。労働者の働き方の多様性は、労働者の健康観や歯科受療行動、歯科保健ニーズなどとも相互に影響している可能性があり、それらをふまえて労働者の全身や口腔の健康管理を困難にする要因を検討した。

(2) 働き方改革での労働者の多様な働き方に対応した新しい産業(歯科)保健対策の検討

本研究では、(1)の研究結果をもとに、働き方改革における労働者の多様な働き方に対応した、新しい産業(歯科)保健対策を検討した。

(3) 労働者の働く環境と産業(歯科)保健に関する Web 教材の作成・実施と客観的評価

本研究では、労働者の多様な働き方や産業(歯科)保健に関する Web 教材を作成した。

## 4. 研究成果

(1) 非正規雇用労働者の割合や社会保障、正規雇用労働者との格差などに関する文献レビュー  
全労働者に占める非正規雇用労働者の割合や、正規雇用労働者との社会保障等の格差などに関する文献レビューを行った結果、非正規雇用労働者の割合は今後も増加が見込まれており、特に非正規雇用労働者が多い「女性労働者」や「高齢労働者」、「外国人労働者」の働き方の多様性は、労働者の健康管理にさまざまな影響を与える可能性が高く、口腔保健も含めた健康管理体制の検討が必要になると考えられた。

(2) 50-60 歳代の非正規労働者の健康に関する後悔と現在の歯科受診状況

本研究では Web 調査を利用し、50-60 歳代の非正規雇用労働者の健康に関する後悔や現在の歯科受診状況を、同年代の正規雇用労働者と比較しながら明らかにすることを目的とした。対象者は Web 調査会社のモニタのうち、50-60 歳代の非正規雇用労働者 168 名と正規雇用労働者 168 名であった(ともに男性 84 名、女性 84 名)。

50-60 歳の非正規労働者は、男女ともに正規労働者と比較して、定期歯科受診をしない傾向にあった。また、女性の定期歯科受診率は男性より高く、男性で歯の定期健診を受ければ良かったと後悔している割合が高かった。

(3) 事業場における正規 / 非正規雇用労働者の健康管理体制と定期歯科受診の関連

本研究では Web 調査を利用し、正規 / 非正規雇用労働者の職域における健康管理体制を比較し、さらに定期歯科受診との関連を明らかにすることを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった(ともに男性 210 名、女性 210 名)。

正規雇用労働者の勤務場所の健康管理体制は、男女ともに非正規雇用労働者より整っており、事業場の規模も結果に影響した可能性が考えられた。また、事業場の健康管理体制は正規 / 非正規雇用労働者の定期歯科受診には必ずしも結びついておらず、職域でも定期歯科受診の意義を啓発する必要があることがわかった。

(4) 非正規雇用労働者の就業条件の男女差に関する検討

本研究では、非正規雇用労働者が現在の就業形態を選んだ背景や労働条件等の男女差を明らかにするため、Web 調査を用いて探索的に検討することを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった(ともに男性 210 名、女性 210 名)。

非正規雇用労働者が現在の就業形態を選んだ背景や労働条件等について男女差を調査したところ、女性の方が現在の就業形態を選ぶ上でワークライフバランスを考えており、女性の雇用保険や賞与、有給休暇の取得などの労働条件等にも、より配慮が見られる傾向があることが示唆された。

(5) 正規 / 非正規雇用労働者の歯科受診状況と通院可能な時間帯の分析

本研究では、正規 / 非正規雇用労働者における 1 年以内の歯科受診状況と、通院可能な時間帯を比較・検討することを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった(ともに男性 210 名、女性 210 名)。

男性の定期歯科受診率は、正規雇用労働者が非正規雇用労働者よりも有意に高かった(正規雇用 40.5%、非正規雇用 27.1%、 $P = 0.004$ )。これは所得や社会的立場などが影響していた可能性も考えられる。歯科治療のために通院可能な時間帯については、非正規雇用労働者は平日の日中に通院可能である割合が正規雇用労働者よりも高く、正規雇用労働者は平日夜間や土・日曜日の勤務時間帯に通院可能な割合が非正規雇用労働者よりも高く、勤務時間帯等による影響も考えられた。

(6) 正規 / 非正規雇用労働者の職業生活における満足度に影響を及ぼす要因

本研究では、正規 / 非正規雇用労働者の職業生活における満足度に影響を及ぼす要因を、Web 調査によって男女別に明らかにすることを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった(ともに男性 210 名、女性 210 名)。質問項目は平成 26 年就業形態の多様性に関する総合実態調査(厚生労働省)を参考に、「現在の仕事に関する満足度」として、職業生活全体および仕事の内容・やりがいや賃金等の 11 項目の満足度について回答を得た。正規 / 非正規雇用労働者の職業生活全体の満足度に影響する要因を調べるため、職業生活全体の満足度を目的変数とし、仕事の内容・やりがいや賃金等の 11 項目の満足度を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析を男女別に行った。

男女ともに正規雇用労働者における職業生活全体および仕事の内容・やりがいや賃金等の満足度が非正規雇用労働者よりも高い傾向があり、職業生活により充実感が得られている可能性が考えられた。特に男性では安定した雇用や待遇面がより職業生活の満足度に影響し、女性では環境やスキルアップも含めた仕事へのやりがいが満足度に反映されていることが示唆された。

#### (7) 正規 / 非正規雇用労働者の有給休暇取得や通院状況

本研究では正規 / 非正規雇用労働者の年次有給休暇取得や通院による休暇の状況について、男女別に比較・検討することを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった（ともに男性 210 名、女性 210 名）。質問内容は最終学歴や事業所の従業員数等の属性、最近 1 年間の年次有給休暇の取得状況、および通院のために休暇を取得した日数等であった。分析については、年次有給休暇を取得しなかった者の割合や、年次有給休暇を取得した者の平均取得日数、通院のための休暇日数等を男女の正規 / 非正規雇用労働者間で比較した。また、男女別に年次有給休暇取得の有無を目的変数とする多重ロジスティック回帰分析を行った。

正規 / 非正規雇用労働者の年次有給休暇の取得の有無を調べたところ、非正規雇用労働者の方が年次有給休暇を取得した者の割合が低く、男性では 2 人に 1 人、女性では 3 人に 1 人が年次有給休暇を取得していなかった。しかし、年次有給休暇を取得した正規 / 非正規雇用労働者に限定して 1 年間の平均取得日数を比較すると、男女の正規 / 非正規雇用労働者間に差は見られなかった。病院・医院への通院のために仕事を休んだ平均日数に関しても同様であった。

男女別に年次有給休暇の取得の有無に関する多重ロジスティック回帰分析を行った結果、非正規雇用は年次有給休暇の取得が難しくなる男女共通の要因であり、さらに男性では第三次産業に従事し、大学卒業以上の学歴がない場合、女性では勤務場所（事業所）での従業員数が少なく、年齢が若い傾向にある場合に休暇が取りにくいことが示された。

#### (8) 正規 / 非正規雇用労働者の飲酒状況の違い

本研究では、正規 / 非正規雇用労働者の飲酒状況の違いを Web 調査によって男女別に明らかにすることを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった（ともに男性 210 名、女性 210 名）。

男女ともに正規雇用労働者は非正規雇用労働者よりも週 1 回以上飲酒をしている者の割合が高く、飲酒がより習慣化している可能性が考えられた。また、飲酒する正規 / 非正規雇用労働者に関しては、男女ともに 1 日あたりの飲酒量に大きな差は見られなかったが、いずれにも清酒換算で 1 日 5 合（900ml）以上飲む習慣がある人が少数ながら含まれるため、雇用形態にかかわらず注意が必要であることがわかった。

#### (9) 正規 / 非正規雇用労働者の食習慣や食行動の違い

本研究は正規 / 非正規雇用労働者の食事のバランスや食習慣（行動）の違いを男女別に検討する目的で、Web 調査を実施した。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった（ともに男性 210 名、女性 210 名）。

正規 / 非正規雇用労働者間では、男女ともに食行動に関する項目を中心に差が見られていた。また、男女ともに正規 / 非正規雇用労働者のいずれであっても、食事のバランスに留意している人の割合が高めであり、正規 / 非正規雇用労働者間で差が見られなかった。

正規 / 非正規雇用労働者の勤務時間や働き方の違いが食行動に影響していた可能性も考えられるため、保健指導の際には労働者の生活習慣とともに、勤務時間や働き方も併せて考慮する必要性が考えられた。

#### (10) 特定健診で用いられている「標準的な問診票」の歯科関連項目における正規 / 非正規雇用労働者の回答の違いについて

本研究では特定健康診査に用いられている標準的な問診票の歯科関連項目について、正規 / 非正規雇用労働者の回答の違いを Web 調査により男女別に検討することを目的とした。対象者は Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 420 名と、非正規雇用労働者 420 名であった（ともに男性 210 名、女性 210 名）。標準的な問診票で歯科関連項目として、「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか」「人と比較して食べる速度は速いですか」「朝昼夕の 3 食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか」「現在、たばこを習慣的に吸っていますか」の 4 項目を抽出し、正規 / 非正規雇用労働者の回答の違いを検討した。

特定健診の「標準的な問診票」の歯科関連項目における正規 / 非正規雇用労働者の分析結果からは、男性では「かみにくいことがある」非正規雇用労働者が 5 人に 1 人とやや多いことが明らかとなった。また、「速食い」や「間食」は全体に該当者が多く、特定保健指導においても生活習慣や働き方の影響を含めて検討する必要があると考えられた。

#### (11) 新型コロナウイルス感染症が正規 / 非正規雇用労働者の働き方や健康管理手法等に及ぼした影響について

本研究では、Web 調査により正規 / 非正規雇用労働者の働き方に新型コロナウイルス感染症の蔓延が働き方や健康管理に及ぼした影響について男女別に検討し、THP をはじめとする

今後の産業保健活動を円滑に進めるための基礎資料とすることを目的とした。回答者は、Web 調査会社の登録モニタのうち、20-60 歳代の正規雇用労働者 930 名（男性 471 名：平均年齢  $44.9 \pm 0.6$  歳、女性 459 名：平均年齢  $44.3 \pm 0.7$  歳）非正規雇用労働者 910 名（男性 446 名：平均年齢  $45.0 \pm 0.7$  歳、女性 464 名：平均年齢  $45.3 \pm 0.6$  歳）であった。

本調査において、最も在宅勤務が行われていた時期と、調査実施時点のいずれにおいても、男女ともに正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者よりも在宅勤務を行っている割合が高かった。また、週 1 回以上在宅勤務を行っている労働者には業務の偏りがあり、属性や人材マネジメントが在宅勤務におよぼす影響をより詳細に分析する必要があると考えられた。さらに、従来からの対面による産業保健サービスの提供は現在も主流であるが、Web 会議システムの活用による産業保健サービスのオンライン化は、在宅勤務が行われている職種にとって、サービスを受ける機会を増やす有効なオプションとなり得ることが示唆された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大山篤, 安藤雄一, 石田智洋, 品田佳世子	4. 巻 69 (3)
2. 論文標題 正規/非正規雇用労働者の年次有給休暇取得に関する研究.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 厚生指標	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山 篤	4. 巻 18
2. 論文標題 労働者の働き方の多様性と産業歯科保健.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヘルスサイエンス・ヘルスケア	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 道喜 将太郎, 原野 悟, 品田 佳世子, 大山 篤, 小島原 典子	4. 巻 60
2. 論文標題 休業者に対する復職支援プログラムの有用性: システマティックレビュー.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 169-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/sangyoeisei.2018-008-A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山 篤	4. 巻 23
2. 論文標題 口腔の健康上の問題は仕事に影響するかもしれない.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 8020推進財団会誌	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大山 篤, 澁谷 智明, 吉野 浩一, 杉原 直樹, 西埜植 規秀, 安田 恵理子, 安達 奈穂子, 品田 佳世子, 上條 英之.
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症が正規 / 非正規雇用労働者の働き方と健康管理に及ぼした影響.
3. 学会等名 第95回日本産業衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤, 澁谷 智明, 吉野 浩一, 杉原 直樹, 西埜植 規秀, 安田 恵理子, 安達 奈穂子, 品田 佳世子, 上條 英之.
2. 発表標題 COVID-19蔓延下における正規 / 非正規雇用労働者の働き方とWeb会議システムの活用状況.
3. 学会等名 第45回日本労働衛生研究協議会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤, 澁谷智明, 吉野浩一, 杉原直樹, 西埜植規秀, 安田恵理子, 久篠奈苗, 安達奈穂子, 品田佳世子, 上條英之.
2. 発表標題 COVID-19蔓延下における正規 / 非正規雇用労働者の在宅勤務状況.
3. 学会等名 第32回日本産業衛生学会 全国協議会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤, 安藤雄一, 石田智洋, 品田佳世子.
2. 発表標題 特定健診・標準的な問診票の歯科関連項目における正規 / 非正規雇用労働者の回答の検討.
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 コロナ禍における健康管理センターの多職種連携事例 .
3. 学会等名 第32回日本産業衛生学会 全国協議会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 職域での歯科口腔保健を推進するために 産業保健看護部会会員の調査結果の概要から .
3. 学会等名 日本産業衛生学会関東地方会第299回例会・2022年度関東産業歯科保健部会研修会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上條英之, 大山篤, 吉野浩一, 江口貴子, 鈴木誠太郎, 恒石美登里, 山本秀樹, 品田佳世子, 杉原直樹 .
2. 発表標題 協会けんぽ (全国健康保険協会) 加入者への歯科口腔保健事業の実施形態等に関する調査研究 .
3. 学会等名 第71回日本口腔衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上條英之, 大山篤, 澁谷智明, 西埜植規秀, 安田恵理子, 吉野浩一, 加藤元, 木下隆二, 品田佳世子, 杉原直樹 .
2. 発表標題 全国健康保険協会47支部における歯・口の健康保持に関する事業実施状況についての調査 .
3. 学会等名 第95回日本産業衛生学会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 澁谷智明, 大山 篤, 吉野浩一, 西埜植規秀, 安田恵理子, 加藤 元, 木下隆二, 品田佳世子, 杉原直樹, 上條英之.
2. 発表標題 企業で歯科口腔保健に従事する者に対する質問紙調査の結果報告.
3. 学会等名 第32回日本産業衛生学会 全国協議会.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山 篤, 安藤雄一, 澁谷智明, 藤田雄三, 須永昌代, 木下淳博, 品田佳世子
2. 発表標題 正規 / 非正規雇用労働者の飲酒状況に関するWeb調査
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山 篤, 安藤雄一, 石田智洋, 鶴田浩子, 品田佳世子
2. 発表標題 正規 / 非正規雇用労働者における食習慣や食行動の違いに関するWeb調査
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山 篤, 矢吹京子, 近藤佳奈子, 佐藤めぐみ, 大倉陽子, 山口浩一, 上條英之
2. 発表標題 職域における新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施経験
3. 学会等名 関東甲信越歯科医療管理学会 第27回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 コロナ禍における活動報告 - 健康管理センター 歯科の立場から -
3. 学会等名 日本産業衛生学会 関東地方会 多職種連携の会 第7回研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山 篤, 安藤雄一, 澁谷智明, 藤田雄三, 須永昌代, 木下淳博, 品田佳世子
2. 発表標題 正規 / 非正規雇用労働者の職業生活における満足度調査.
3. 学会等名 第93回日本産業衛生学会
4. 発表年 2020年 ~ 2021年

1. 発表者名 大山 篤, 安藤雄一, 石田智洋, 品田佳世子
2. 発表標題 正規 / 非正規雇用労働者の有給休暇取得や通院状況に関する研究.
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会・学術大会
4. 発表年 2020年 ~ 2021年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 新型コロナウイルスが職域に及ぼした影響について
3. 学会等名 深井保健科学研究所 疫学セミナー
4. 発表年 2020年 ~ 2021年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 健康診断・診療時における新型コロナウイルス感染対策の取り組み 関連するコロナ対応を含めて
3. 学会等名 令和二年度日本産業衛生学会 関東産業歯科保健部会 後期研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 大山 篤，安藤雄一，澁谷智明，藤田雄三，須永昌代，木下淳博，品田佳世子
2. 発表標題 非正規雇用労働者の就業条件の男女差に関する検討.
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 大山 篤，安藤雄一，石田智洋，品田佳世子
2. 発表標題 正規 / 非正規雇用労働者の歯科受診状況と通院可能な時間帯の分析 .
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会・学術大会 .
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 大山 篤
2. 発表標題 企業現場で行われている歯科保健事業 .
3. 学会等名 令和元年度 口腔衛生関東地方会研究会 学術大会 及び 日本産業衛生学会 関東産業歯科保健部会 研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 大山篤, 安藤雄一, 澁谷智明, 藤田雄三, 須永昌代, 木下淳博, 品田佳世子
2. 発表標題 50-60歳代の非正規労働者の健康に関する後悔と現在の歯科受診状況.
3. 学会等名 第91回日本産業衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山篤, 安藤雄一, 石田智洋, 品田佳世子
2. 発表標題 事業場における正規 / 非正規雇用労働者の健康管理体制と定期歯科受診の関連.
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山篤
2. 発表標題 非正規雇用労働者の生活習慣と口腔保健行動.
3. 学会等名 第96回日本産業衛生学会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大山 篤, 品田佳世子, 安達奈穂子, 猪股久美, 久篠奈苗, 江口貴子, 石塚洋一, 杉原直樹, 西埜植規秀, 上條英之.
2. 発表標題 職域における歯科口腔保健事業の実施状況と課題 産業看護職を対象とした調査から.
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 江口貴子, 小野瀬祐紀, 大山 篤, 澁谷智明, 杉原直樹, 上條英之.
2. 発表標題 事業所での歯科口腔保健サービスに関する実施状況調査.
3. 学会等名 関東甲信越歯科医療管理学会 第29回学術大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>日本産業衛生学会関東地方会第299回例会・2022年度関東産業歯科保健部会研修会  <a href="http://jsokant.umin.jp/event.html?299">http://jsokant.umin.jp/event.html?299</a>          ヘルスサイエンス・ヘルスケア  <a href="http://www.fihs.org/health.html">http://www.fihs.org/health.html</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	品田 佳世子  (Shinada Kayoko)  (60251542)	東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授   (12602)	
研究分担者	木下 淳博  (Kinoshita Atsuhiro)  (10242207)	東京医科歯科大学・統合教育機構・教授   (12602)	
研究分担者	須永 昌代  (Sunaga Masayo)  (90581611)	東京医科歯科大学・統合教育機構・助教   (12602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------